

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501233		
法人名	有)エイチ・ティ・エス		
事業所名	グループホームパストラル1		
所在地	札幌市清田区平岡4条3丁目23-27		
自己評価作成日	令和5年7月31日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0170501233-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和5年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

パストラルでは、食への楽しみを大切にしており、毎日職員が手作りの食事を提供しています。又、夏には畑で利用者と一緒に育てた野菜を調理し、育てる楽しみや食べる楽しみを感じられるよう支援しています。その他、定期的な外食レクを企画していつもとは違う環境で自分の好きなものを選択出来る場を提供したり、パン屋さんのパンバイキングやかき氷作りなど様々な楽しみごとを取り入れて生きる活力となるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用型デイサービスを併設しているグループホームパストラルは、最寄りのバス停から至近距離にあります。隣接のシェアハウスの住民は共用型デイサービスを利用しており、地域交流の場にもなっています。利用者参加型の川柳コンテストを企画し、職員が投票して選ばれた作品はリビングの壁面に掲示しています。家族満足度アンケートを実施し、出された意見には改善策を講じ、また、感謝の言葉は職員の意欲向上につながっています。外出行事として動物園などの行楽地を訪れ、日常的には買い物や敷地内にある桜の木の下でお茶会を楽しみ、畑の野菜の成長を眺め、収穫したミニトマトやキュウリなどは食卓に彩を添えています。面会は、月1回居室で15分程度ですが、利用者や家族、知人の笑顔が見られる場面となっています。利用者にとって楽しみの一つである食事は豊富な内容になっており、職員は持てる力を発揮しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念とユニットごとの理念を掲示して常に行動指針を意識して業務にあたっている。又、ひとり一人のケアについても理念に当てはめながら実践出来ているかを確認している。	法人理念を根幹に、さらに職員の利用者に対する思いが反映されたユニット理念を各ユニットに掲げています。日々はもとより、ケアカンファレンスや個人面談時に理念の実践を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより様々な活動を自粛していたが今後地域行事や活動に参加していきたい。	2か所の町内会に加入し、各々の回覧板で地域情報が得られています。運営推進委員でもある地域の方から毎年カシの実が届き、スムージーなどを楽んでいます。また、事業所周辺の清掃は、ボランティアの力を借りています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域開催のSOSネットワークに参加したり民生委員を通して地域高齢者の困りごと等、都度相談を受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者へのサービス内容を報告、意見交換を行いサービスに繋げている又、ご家族への満足度調査を実施し改善点についてはすぐに改善に取り組んでいる。	会議は、地域関係者や行政、家族の参加のもと対面で開催し、意見や情報の交換が行われています。利用者や職員状況、活動報告、コロナ感染症関連等に加え、時には日常の写真を添付した議事録を推進委員や家族に届けています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例や柔軟なサービス提供ができるよう日頃から市町村担当者へ相談し助言を受け協力関係を築いている。	行政の各担当者とはメールやズーム、電話、郵送、来訪時でやり取りがあり、適切な運営に繋がっています。地域包括支援センターとは、相互の行事で交流があり現状を共有しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し会議や研修会でひとり一人が身体拘束について理解を深めている。玄関については防犯上常に施設している。	身体拘束や虐待をしないケアを基本とし、指針やマニュアルの整備、定期的に適正化委員会や研修会を開催し、適切なケアの意識化を図っています。研修会後に報告書を提出してもらい、理解度を確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止、権利擁護について学ぶ機会をつくり防止に努めている。又、虐待防止委員会を開催し、虐待に当たる行為がないか確認しながら日々業務にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族や行政書士の方と連携しながら必要性や活用の仕方等、助言を受けている。又必要であれば支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明と疑問点について尋ねよう心掛けている。又、改定時には書面で通達し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者・家族と面会時や電話でコミュニケーションを図り、意見や要望を出しやすい環境づくりに努めそれらを運営に反映している。	家族の要望を尊重していますが、さらに、接遇など15項目からなるアンケートを実施し、評価や意見等を受けとめ改善策を講じています。利用者からの外出希望には検討を経て応じるなど、出来る限り満足感が得られるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や、ミーティング等から職員の意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。	管理者は日常的に職員の意見を傾聴し、また、年3回の個別面談においても私的なことも含め意向等の聞き取りに努めています。代表者は、管理者やケアマネジャーと面談し、事業所の全体像を把握し、利用者や職員が心地良く過ごせる環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年人事考課を行い個々の努力や実績等を把握し、新しい取り組みへの参加や残業をしない環境づくりなど働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員一人一人の力量を把握するよう日頃から努めている。又、定期的な研修を通じて職員が学ぶ機会を提供するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナにより以前行っていた他事業所との勉強会や交流は現在行っていない。今後少しずつ開催していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や生活リズム、嗜好などを事前に把握し、不安や困りごとを最小限にできるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の時点よりご家族の困りごと等を聞き取り、安心して入居できるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集や聞き取りをする中で、本人や家族が必要としている支援を見極めてサービス提供に努めている。又、他のサービスも視野に柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相互の人間関係構築に努め、日常生活を通じて支合いながら生活できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族の意向を聞きながら本人のケアについて一緒に考え支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は勿論、今まで馴染みのある方との交流できる機会や手紙や電話のやりとりなど支援している。	家族や知人との面会は、月1回15分程度ですが、お互いに笑顔が見られる場面となっています。電話や手紙の取り次ぎ、また、個別に趣味や興味のある場所に出かけたり、家族との墓参りなど利用者にとって大切な存在を忘れることが無いよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中でも気の合う方と関わりあえるような席の配置や、孤立することがないように職員が間に入り良好な関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後でもご家族にその後の状況を伺ったり、相談ごとがあれば支援している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用時に本人に希望や意向を聞き取り希望に添えるよう支援している。又、困難な場合には、生活歴やご家族から聞き取り本人本位に検討している。	職員は、利用者との会話やちょっとした動作から根底にある思いの把握に努めています。積み重ねてきた個別の記録や家族からの伝え聞き、職員の気づき等も参考にして、内容によってはケアプランに反映しています。	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握し出来るだけその生活を継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らし方や心身の状態について、アセスメントを行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望や意向の反映に努め、カンファレンス等を通して現状に即した介護計画立案に努めている。	ケアプランの定期や状態変化による見直し時は、利用者や家族の意向を踏まえて、職員全員の気づきやケアプランと連動している介護記録等を参考にして、これまでの支援目標を継続するか、新たに目標を策定するかを検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や日々の変化など具体的に介護記録へ記入し申し送りなどを通して情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況の変化に応じて柔軟にサービスが提供されるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や町内会の活動を通して社会資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を第一に通院の継続や往診対応など適切な医療が受けられるよう支援している。	受診先は、利用者や家族の意向を受け入れています。月2回の内科医と週2回の歯科医、都度の皮膚科医の往診体制を整備しています。他科受診は家族と協力して支援し、また、週1回看護職員が健康状態の確認を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はかかわりの中で得られた気づきや情報を看護師に報告・相談し適切な看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、ご家族と病院関係者との連絡を密にとり、情報交換や相談に努めている。又、ICの際には職員も一緒に立ち合い、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人・家族から終末期に向けた方針を確認し、心身の状況の変化に応じて都度意思確認を行うようにしている。	入居時に、指針で重篤時における対応を説明して同意を得ています。マニュアルを整備し、喀痰吸引の有資格者も数名おり体調悪化時には、医療従事者や家族とチームを組み利用者の思いに応えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には出来るだけ救急救命講習の受講を勧め急変時に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の地震・火災想定避難訓練を利用者も交えて行っている。又、職員の連絡網訓練を実施してすぐに応援がかけつけられるよう準備している。	年2回、夜間時に地震から火災発生を想定した避難訓練を実施しています。振り返りを行い、課題を洗い出しています。地域住民には避難後の見守り支援を要請しています。火災時の1次避難場所は、駐車場としています。	新人職員に対して、非常時での対応確認や訓練への参加を予定していますので、その実行に期待します。併せて、停電や断水を含めた自然災害やケア場面での対応など、さらなる防災、減災に向けた取組の検討も期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修等から人格の尊重とプライバシーの確保について学ぶ機会をもち、職員共通の課題として取り組んでいる。	家族満足度アンケートの中にも接遇やプライバシー保護への設問があり、事業所と家族の評価を照らし合わせ、改善が必要な場合は速やかに検討しています。排泄や入浴時での羞恥心への配慮、適切な言葉かけなど人格を尊重したケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとり一人に応じた自己決定ができる声掛けを行い思いや希望に寄り添った対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事時間や睡眠時間、余暇活動など本人の暮らしのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた装いやその人らしい服装で日々過ごしていただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好を把握して苦手なものは代替を用意して提供している。又、食事の準備、片付けなど利用者の出来る範囲で職員と一緒に役割をもって生活していただいている。	献立は、旬の食材や畑の野菜、職員が採ってきた蕨などを活用しながら、利用者の馴染みの物や好物を取り入れています。バイキングや屋外での焼肉、敬老会には握り寿司、天ぷら、そば、煮物の祝い膳で特別感を出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分量を考えたり医療のアドバイスを受けながら必要な栄養が摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士指導のもと、職員が口腔ケアを行い、清潔が保持できるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて、排せつパターンを把握し定時トイレ誘導を行い失敗を減らし快適に過ごせるよう支援している。	利用者の排泄状態を把握して、自主的にトイレに向かう利用者の見守り、2人介助、ベッド上での支援、転倒防止のため夜間のみポータブルトイレの活用など、柔軟に対応しています。衛生用品の使用時は、利用者や家族と相談しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、飲食物の工夫をして排便につながるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴時間帯や出来るだけ希望に合わせているが、職員配置の関係上すべての希望に応じることは難しいが好みの温度や同性介助など出来る範囲の希望については支援している。	入浴は週2回を目安に、1人で入りたい、湯加減、入浴拒否、同性介助などの要望に応じています。状況により、足湯をしながらのシャワー浴もありますが、浴槽に身を沈めゆったりとした時間の中で、利用者は職員に本音や昔話などを話しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度や温度管理を徹底し、活動状況にも配慮しながら安静を促したり環境を整えて心地よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師と常に情報を共有し薬の用法容量、目的について理解を深め症状の変化の確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の嗜好品や楽しみを把握してレクや外出支援などで気分転換の機会を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族とお墓参りや、ホームの定期的な外出行事(樹芸センター、動物園、お花見)に出かけたり、近所のスーパーに買い物支援を行っている。	敷地内には2本の桜の木があり、利用者は木の下でお茶会をしたり、室内からも花見を楽しんでいます。畑の野菜や花の成長を眺めたり、ミニトマトやキュウリなどを収穫して食事に彩を添えています。外出行事で行楽地等に出かけ気分転換に繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者にはご自身でお金を管理していただき、希望時応じて買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を本人に繋いだり、耳の遠い方は手紙のやり取りをして良い関係づくりを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切に季節の飾りやその時期に合った食事の提供を行っている。又、温度や湿度管理を行い快適な空間づくりに配慮している。	玄関ドアを開けると、季節に合わせたクリスマスツリーが置かれています。心地良い生活環境の中で、リビングの壁には行事での写真や利用者で制作した季節飾り、川柳コンクールの優秀作品等が飾られています。その中で利用者は、新聞を読んだり、テレビを見るなど寛いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で心地よく過ごせるようソファや椅子を様々な場所に配置して工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や小物を持参していただき、居心地の良い空間となるよう努めている。	居室前には表札が掲げられ、自分の部屋として認識ができるようになっています。クローゼットが備えられている部屋には、利用者や家族が家具やテレビ、冷蔵庫、仏壇、写真、趣味の物などを持ち込み、落ち着いた感のある設えになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の名前札やトイレの案内図で迷いがなく生活できるよう工夫している。		